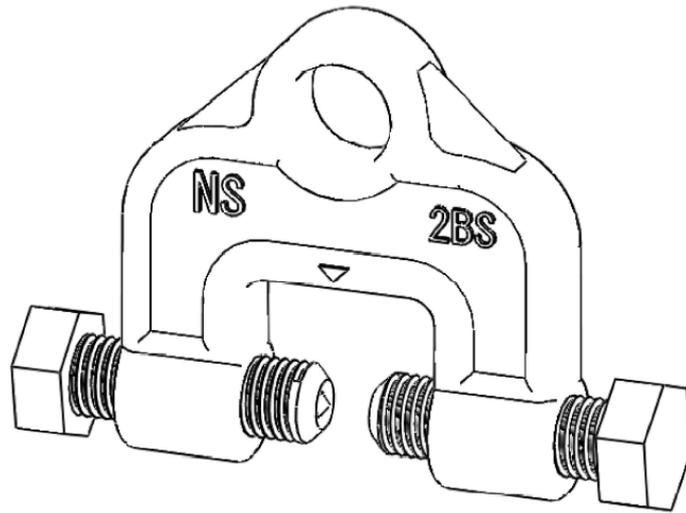


23.4月 初版

取扱説明書

マルチH鋼クランプ



目次

1. 安全にご使用いただくために	2
2. 使用用途	2~4
3. 製品仕様、寸法	4
4. 設置	5~8
4-1 設置方法	5
4-2 取り付け可能な物	6~7
4-3 取り付け時の注意事項	8
5. 使用例	9~11
6. 管理上の注意	11

1・安全にご使用いただくために

本品は、高所作業時に用いる墜落制止器具のフックや墜落制止器具のフックをかける親綱等を張る、または安全昇降器具を取り付けるためのクランプです。

本品を安全にご使用いただくために、この取扱説明書を必ずお読みいただき、使用方法を十分理解した上で使用してください。

本書に記載されている方法以外で使用して起きた事故につきましては当社は一切の責任を負いかねますので、ご注意ください。

2・使用用途

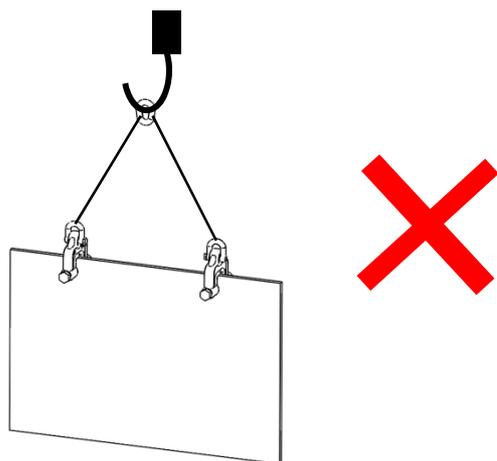
※指定された用途以外の使用禁止、許された方法以外の使用禁止

マルチH鋼クランプは鉄骨H形鋼に取り付け、墜落災害防止のために墜落制止器具のフックや墜落制止器具を取り付ける親綱等を張る、または安全昇降器具を取り付けるためのクランプです。この用途以外での使用は、大変危険ですので絶対に使用しないでください。またこの取扱説明書に記載された使用方法以外での使用も危険ですので、絶対にしないでください。

【例】

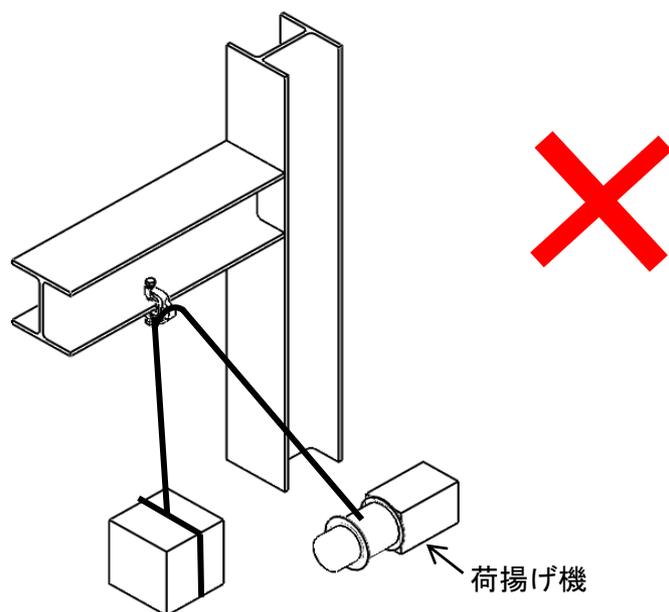
◆吊り具としての使用は禁止！

※破損して、重大な事故が起こる恐れがあります。



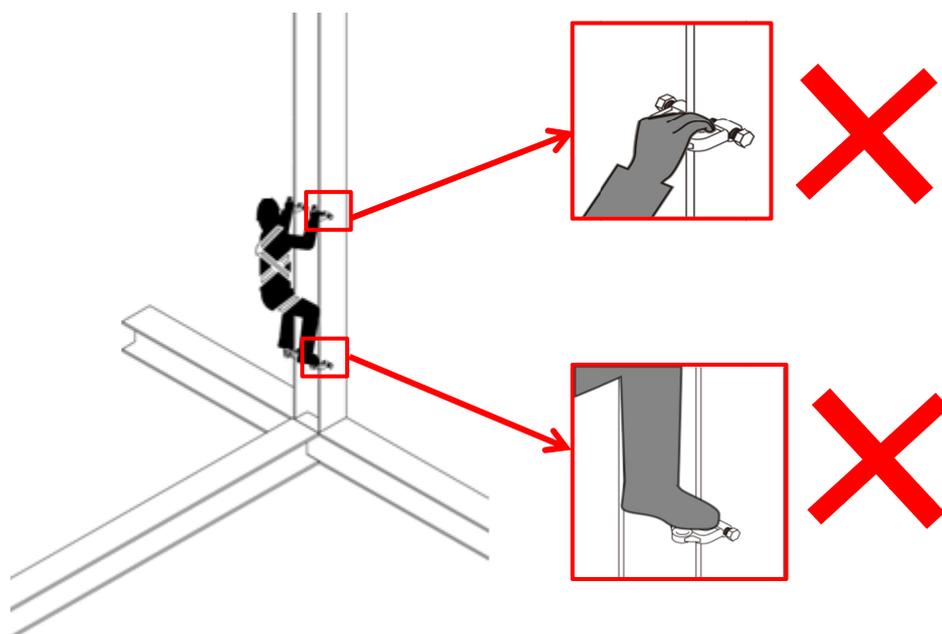
◆荷揚げ用具としての使用は禁止！

※破損して、重大な事故が起こる恐れがあります。



◆「手掛かり」「足掛かり」としての使用は禁止！

※昇降時の手掛かり、足掛かりに使わないでください。またクランプにぶら下がったりしないでください。重大な事故が起こる恐れがあります。



◆改造の禁止！

マルチH鋼クランプは絶対に改造しないでください。

穴をあける等、強度を下げる改造はもちろん禁止ですが、強度を増す目的で補強材を付け加えたりすることも危険ですので、絶対におやめください。

改造されたマルチH鋼クランプを使用しての事故に付きましては、責任を負いかねますのでご注意ください。

◆事故にあった品（事故品）

落下事故に遭った、異常な衝撃荷重を受けた

マルチH鋼クランプ（以下「事故品」と呼ぶ）は強度が低下している恐れがありますので、そのまま使用すると非常に危険です。

「事故品」は使用を禁止し、別のマルチH鋼クランプと交換してください。

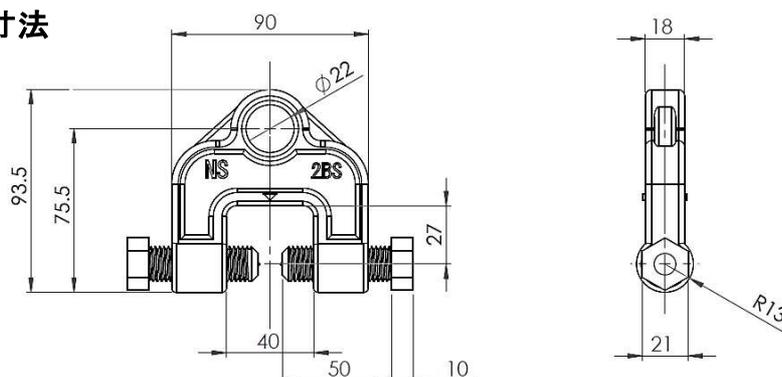
誤使用を防ぐためこのような際は、マルチH鋼クランプに「事故品」などとマジック等で記載するなど、明確に判別できるように処置をしてください。※安全上の義務です。

また「事故品」と「良品」が混ざらないように管理をしてください。レンタルで使用している場合は、「事故品」であることを返却の際に申告してください。

3・製品仕様、寸法

重量 (kg)	0.78 (ボルト部含む)
ボルト締め付けトルク (N・m)	80~90
ボルト対角二面幅 (mm)	21
接続穴寸法 (mm フック等取付部)	Φ22
クランプ範囲 (mm)	8-36

寸法

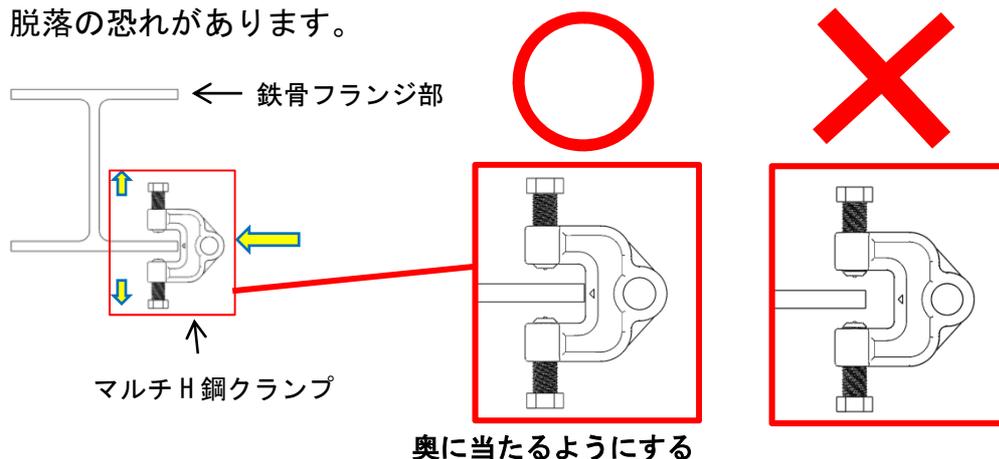


4・設置

4-1・設置方法

- ①ボルトを緩め、クランプの奥に鉄骨フランジ部が当たるまで入れてください。

※奥まで挿し込まない場合、荷重が発生した際にクランプが外れて脱落の恐れがあります。

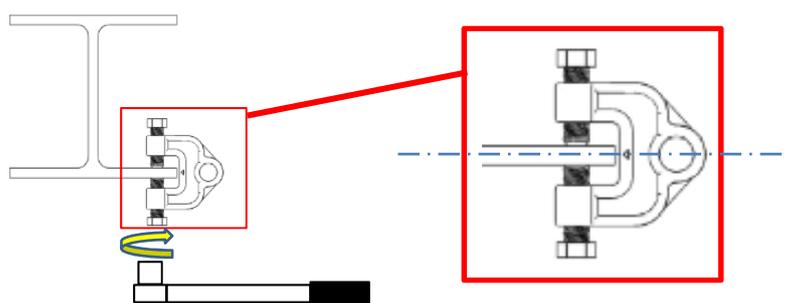


- ②クランプ中心の△部分と鉄骨フランジの中心が合うように調整し、両側の取り付けボルトを80~90N・mの締め付けトルクで締め付けを行ってください。

締め付けの際は必ずトルクレンチを使用し、締め付けを行ってください。

※電動式インパクトレンチの使用は不可！

(締め付けトルクにバラツキがあるため)



※必ずクランプの中心の△部分とフランジの中心部を合わせて下さい。

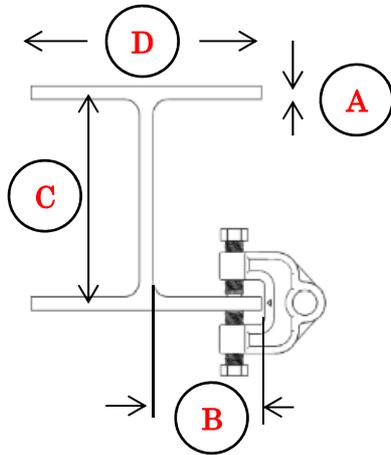
※片方を締めると、もう一方が緩むことがあります。交互に両方の取り付けボルトを均一に締めてください。

※絶対に締め付けトルクを80N・m以下にならないようにしてください。締め付け力が不足すると、脱落の恐れがあります。また過度に締め付けを行うと、本体を破損させる恐れがあります。

4-2・取り付け可能な物

H形鋼、またはビルドH形鋼に取り付けできます。

※テーパ断面の鋼材には取り付けできません。



H型鋼取り付け可能条件

- ①板厚 8~35mm
- ②懐 40mm 以上
- ③高さ 100mm 以上
- ④巾 100mm 以上

◆薄いH形鋼に取り付け

小梁用のH形鋼など薄手のH形鋼にマルチH鋼クランプを取り付けた場合、落下事故の際にフランジやウェブが大きく曲がり危険です。

(落下距離が大きくなります)

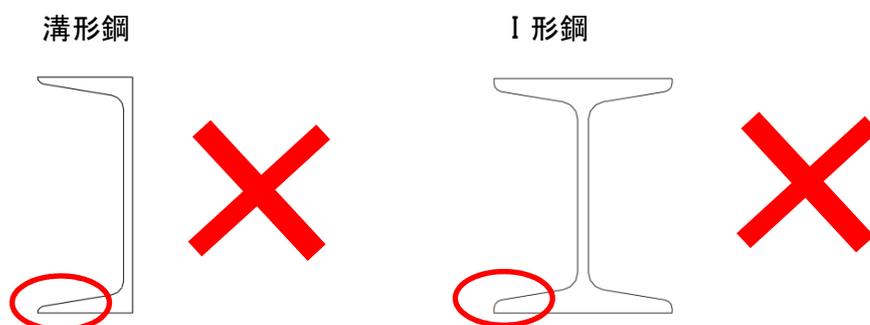
薄手のH形鋼にマルチH鋼クランプを取り付ける時は、落下事故の際に落下した人が床面や品物にぶつからないよう、特に配慮して設置する必要があります。

なお落下事故等が発生した際のH形鋼のフランジの曲がりやウェブの曲がりについては責任を負いかねますのでご注意ください。

【禁止事例】

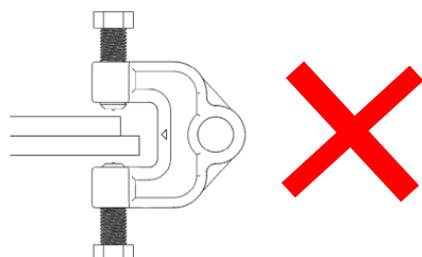
・ H形鋼以外への固定禁止

溝形鋼と I 形鋼の断面はテーパになっていますので取り付けできません。
落下事故の際にマルチH鋼クランプが外れて脱落の恐れがあります。



・ 取り付けボルトとH形鋼梁との間に挟みものの禁止

取り付けボルトで直接H形鋼のフランジを押さえてください。H形鋼の傷つきを防止する目的で取り付けボルトとH形鋼のフランジの間に物を挟まないでください。また複数のH形鋼フランジの挟締に使用しないでください。落下事故の際にマルチH鋼クランプが滑って脱落する恐れがあります。



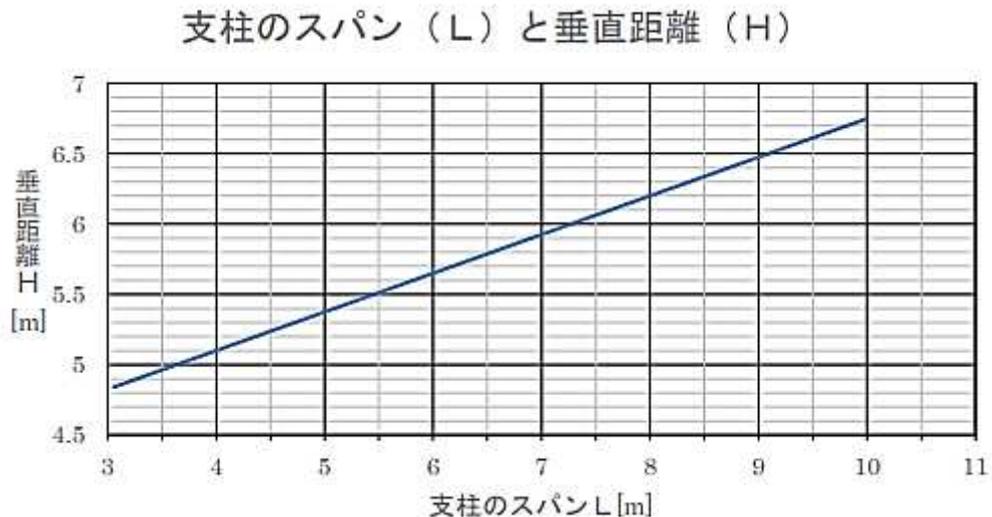
4-3・取り付け時の注意事項

- ・ 変形やボルト先端部の摩耗している物、破損がある物は使用しないでください。クランプが外れる原因となります。
- ・ 設置時にH形鋼のフランジ部やマルチH鋼クランプに付着している、泥、コンクリート、潤滑油などの付着物は必ず除去した状態で取り付けてください。荷重が発生した際にクランプが外れる原因となります。
- ・ 親綱を張る際の取り付けスパンは、どのような場合でも 10m 以内にしてください。
- ・ 取り付けスパンは、衝突の恐れのある床面または設備等の垂直距離（H）に応じ、次式より算出した値以下にしてください。

※ 垂直距離（H）とは、作業床（親綱やクランプの位置ではない）から、衝突の恐れのある床面または設備等までの距離

$$\text{※ 取り付けスパン} = \frac{40}{11} (H-4) \text{【m】}$$

【参考】 スパンと垂直距離の関係の表



※一般社団法人 仮設工業会発行 「仮設機材認定基準とその解説」より引用

5・使用例

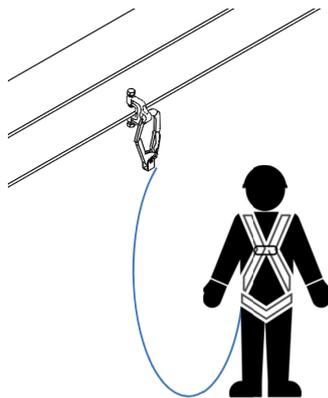
①直交



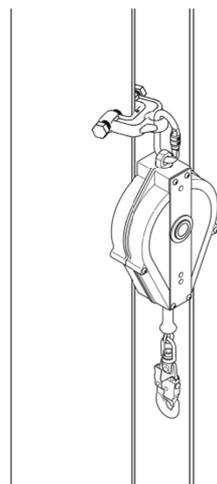
②平行



③安全帯類フック取り付け

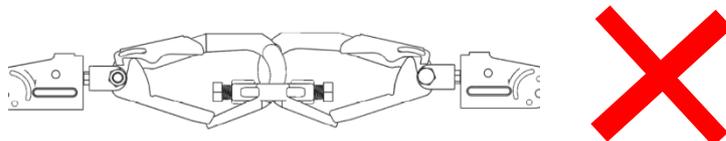


④安全ブロック等の吊り下げ

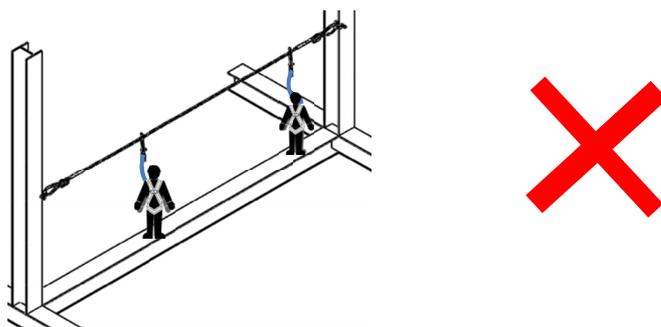


【禁止事例】

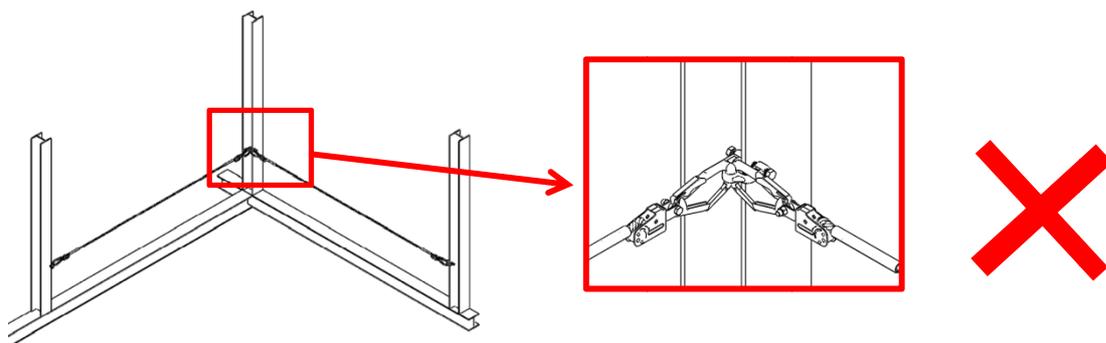
- ◆複数のフック等を掛ける行為は危険なのでしないでください。



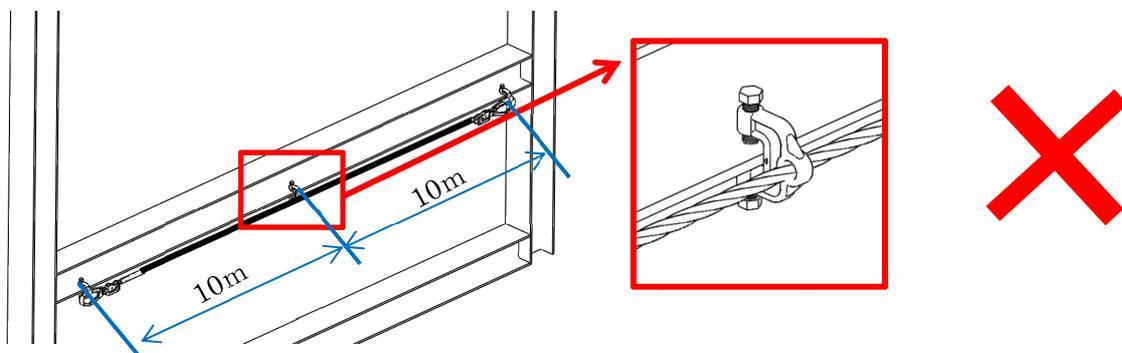
- ◆親綱等の1スパンに対し、2人以上使用しないでください。



- ◆コーナー部分などで二方向に親綱等を張らないでください。



- ◆親綱等を通すだけの使い方はしないでください。
落下距離が大きくなります。



【使用上の注意点】

- ・強い衝撃を与えないでください。
破損やクランプが外れる原因となります。
- ・一つのクランプに複数のフック等を掛けないでください。
クランプが外れる原因となります。
- ・親綱等は1スパン10m以内とし、且つ1スパン2人以上で使用しないでください。
クランプが外れる原因となります。
- ・長期間設置する際は定期的に緩みがないか、ズレていないか点検を行ってください。
緩み等があるとクランプが外れる原因となります。

6. 管理上の注意

- ・改造はしないでください。
- ・変形やボルト先端部の摩耗している物、破損がある物は使用しないでください。
- ・ボルト部に付着した異物は必ず除去して保管してください。
- ・専用のボルト以外を使用しないでください。
- ・保管時はなるべく屋内に置き保管してください。